

平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アイフリーク ホールディングス
 コード番号 3845 URL <http://www.i-freek.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 管理担当取締役
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 谷内 進
 (氏名) 芦田 克宣

TEL 092-471-5211

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	620	△21.2	1	—	2	—	△58	—
26年3月期第2四半期	787	6.6	△216	—	△213	—	△405	—

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 △58百万円 (—%) 26年3月期第2四半期 △407百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	△5.18	—
26年3月期第2四半期	△39.81	—

(注) 当社は、平成25年10月1日付けにて普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いました。当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭
27年3月期第2四半期	687	—	△33	—	△5.6	△3.45
26年3月期	913	—	22	—	2.0	1.59

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 △38百万円 26年3月期 17百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,037	△26.4	3	—	1	—	1	—	0.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	11,237,500 株	26年3月期	11,215,900 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	300 株	26年3月期	300 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	11,229,833 株	26年3月期2Q	10,196,300 株

(注) 当社は、平成25年10月1日付けにて普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いました。当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定し、26年3月期2Q期中平均株式数(四半期累計)を記載しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表の四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策、日銀による金融政策によって、企業収益と雇用環境は改善傾向にあり、円安による価格競争力の改善を受けて輸出企業を中心に株価は堅調な展開が続きました。しかしながら、4月の消費税率引上げに伴い個人消費が低迷し、消費税率の再度引上げによる景気の減速懸念、海外においても近隣諸国との外交問題、新興国経済成長の減速懸念等により、引き続き先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当社グループ（当社及び連結子会社）の関連するモバイルコンテンツ業界におきましては、携帯電話利用者がフィーチャーフォン（以下、FPという。）からスマートフォン（以下、SPという。）への端末変更がよりいっそう進み、さらに、タブレット端末の利用者が増えた結果、SP及びタブレット端末（以下、スマートデバイスという。）の利用者が増加傾向にあります。これらの要因により、インターネットサービス及びアプリケーションの利用、電子書籍の閲覧等、スマートデバイスによるコンテンツ利用シーンが拡大しております。

このような経営環境のもと、当社グループは、収益の中心であるモバイルコンテンツ事業のコミュニケーションコンテンツ領域（『デココレ』、『photodeco+』等）において、SPでのサービス強化を進めてまいりました。加えて、ファミリーコンテンツサービス領域（『森のえほん館』や『なりきり!!ごっこランド』シリーズ等）では、メジャーブランドのスポンサー獲得とシリーズアプリのリリースを行い、より一層の認知度向上と課金化への取組みを進めてまいりました。また、Eコマース事業におきましては、事業黒字化を最優先事項としつつ、今後の事業展開に向けた検討を進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は620,376千円（前年同期比21.2%減）、営業利益は1,902千円（前年同期は216,372千円の営業損失）、経常利益は2,955千円（前年同期は213,192千円の経常損失）、四半期純損失は58,226千円（前年同期は405,950千円の四半期純損失）となりました。

各事業及び領域における業績の概況は、以下のとおりであります。

① モバイルコンテンツ事業

当該事業を担う株式会社アイフリーク モバイルは、コミュニケーションコンテンツ領域とファミリーコンテンツサービス領域にて事業活動を行っております。

（コミュニケーションコンテンツ領域）

この領域におきまして、デコレーションメール素材提供サイト『デココレ』、写真加工アプリ『photodeco+』、カロリー管理アプリ『カロリナ』を提供しております。モバイルキャリア各社の定額コンテンツ配信サービスに当社のコンテンツが複数選定されており、当社のクリエイティブ力とサービス配信技術に対して高い評価をいただいております。8月にはソフトバンクモバイル株式会社が開始する新サービス「App Pass」に、『デココレ』『photodeco+』『カロリナ』の3アプリを提供することが決定いたしました。

（ファミリーコンテンツサービス領域）

この領域におきまして、月額課金で電子絵本約300冊が読み放題となるスマートデバイス向けアプリ『森のえほん館』、同じくスマートデバイス上で職業体験ができる知育アプリ『なりきり!!ごっこランド』シリーズを提供しております。『森のえほん館』では、電子書籍として提供しておりますよしもとパパ芸人による絵本を、書籍と電子えほんを連動させる「ハイブリッド絵本」として出版し、認知度向上を図りました。『なりきり!!ごっこランド』シリーズでは、東映株式会社が提供する烈車戦隊トッキュウジャーを『なりきり!!ママごっこ-お弁当をつくらう!』に期間限定で登場させ、スマートデバイス上で親子楽しくキャラクター弁当を作ることができるアプリに進化させる試みを行いました。また、アース製菓株式会社から『歯医者さんごっこ』、EMGマーケティング合同会社から『サービスステーションごっこ』への協賛が決定いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間におけるモバイルコンテンツ事業の売上高は460,192千円（前年同期比2.4%増）、セグメント利益は115,315千円（前年同期比183.4%増）となりました。

② Eコマース事業

当該事業を担う株式会社アイフリーク プロダクツ セールスは、美容・健康商材を中心とした商材の提供を行っております。

Eコマース事業におきまして、先般の薬事法の規制強化等の外的要因による業績悪化を挽回させるべく、抜本的なコスト構造の見直しを含めた事業改革を進めており、収益化に向けた取組みを進めてまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間におけるEコマース事業の売上高は160,183千円（前年同期比50.5%減）、セグメント損失は2,952千円（前年同期は50,025千円のセグメント損失）となりました。

（注）各社の社名、製品名、サービス名は各社の商標又は登録商標です。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

流動資産は、前連結会計年度末に比べて220,646千円（29.6%）減少し、524,442千円となりました。これは主として、現金及び預金が107,382千円、受取手形及び売掛金が90,416千円、その他流動資産が24,166千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて3,836千円（2.4%）減少し、158,408千円となりました。これは主として、無形固定資産が13,336千円増加したものの、有形固定資産が5,005千円、投資その他の資産が12,167千円減少したことによるものであります。

繰延資産は、前連結会計年度末に比べて971千円（16.7%）減少し、4,859千円となりました。

以上の結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて225,455千円（24.7%）減少し、687,710千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて146,779千円（23.6%）減少し、475,894千円となりました。これは主として、買掛金が12,669千円、短期借入金が44,000千円、1年内返済予定の長期借入金が23,310千円、未払法人税等が34,812千円、その他流動負債が31,987千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて22,244千円（8.3%）減少し、245,285千円となりました。これは主として、長期借入金が19,896千円、その他固定負債が2,383千円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて169,023千円（19.0%）減少し、721,179千円となりました。

純資産は、四半期純損失58,226千円を計上したことにより、前連結会計年度末に比べて56,431千円減少し、33,468千円の債務超過の状態となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、当第2四半期連結累計期間の期首に比べて107,382千円減少し、327,906千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動におけるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、4,274千円（前年同期は201,147千円の支出）となりました。これは主として、売上債権の減少額30,932千円、前渡金の減少額25,544千円等により資金が増加したものの、仕入債務の減少額12,669千円、未払金の減少額36,237千円等により資金が減少し、税金等調整前四半期純損失として56,528千円を計上したことによるものであります。

（投資活動におけるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、20,771千円（前年同期は16,172千円の支出）となりました。これは主として、無形固定資産の取得による支出34,426千円により資金が減少したことによるものであります。

（財務活動におけるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用された資金は、90,885千円（前年同期は66,724千円の支出）となりました。これは主として、短期借入金の純減少額44,000千円、長期借入金の返済による支出43,206千円等により資金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、平成27年3月期第2四半期連結累計期間の業績を鑑み、直前の公表予想値（平成26年5月15日公表）を次のとおり修正し、平成26年11月7日に公表しております。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,590	3	1	1	0円5銭
今回修正予想 (B)	1,037	3	1	1	0円9銭
増減額 (B-A)	△553	0	0	0	—
増減率 (%)	△34.7	0.0	0.0	0.0	—
(ご参考) 平成26年3月期実績	1,410	△375	△384	△616	△60円18銭

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、第2四半期連結会計期間において、連結子会社である株式会社アイフリーク モバイルは、連結子会社であった株式会社キッズスターを吸収合併したため、連結の範囲から除外しております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上し、3期連続の営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。さらに、当第2四半期連結累計期間において、貸倒引当金繰入額59,484千円を特別損失に計上したことにより、債務超過に陥りました。

この改善策として、営業利益を確保すべく当社グループは、経営と事業執行の役割を明確にすることによって、グループ全体の持続的利益成長を図るべく、事業部制から純粋持株会社制に移行し、外部企業との提携や事業再編など機動的な意思決定を可能とする体制を整えるとともに、徹底した固定費の削減の一環として、当社支店事務所及び関係会社本社事務所の移転、人員削減等を実施しております。

また、「4. 四半期連結財務諸表（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（重要な後発事象）」に記載のとおり、当社は、連結子会社である株式会社アイフリーク モバイルの「なりきり!!ごっこランド」を中心とする知育アプリ部門を、クックパッド株式会社の子会社へ譲渡することを決議し、平成26年11月4日に譲渡しております。これにより、第3四半期連結会計期間において、譲渡対価80,000千円を受け取るとともに、事業譲渡益を特別利益に計上する予定であり、債務超過は解消する見通しであります。

事業資金面についても、取引金融機関と良好な関係にあり、当面の事業資金の確保はなされていることから、少なくとも今後1年間の資金繰りに重大な支障をきたすような状況にはありません。

以上のことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載には至りませんでした。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	435,274	327,892
受取手形及び売掛金	283,247	192,831
有価証券	14	14
商品	19,788	17,123
仕掛品	1,920	3,359
原材料	16,631	14,915
その他	62,887	38,720
貸倒引当金	△74,675	△70,413
流動資産合計	745,089	524,442
固定資産		
有形固定資産	39,097	34,091
無形固定資産	49,448	62,784
投資その他の資産	73,700	61,532
固定資産合計	162,245	158,408
繰延資産	5,831	4,859
資産合計	913,166	687,710
負債の部		
流動負債		
買掛金	37,636	24,966
短期借入金	367,000	323,000
1年内返済予定の長期借入金	79,792	56,482
未払法人税等	39,521	4,709
その他	98,723	66,735
流動負債合計	622,673	475,894
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	50,780	30,884
資産除去債務	6,935	6,970
その他	9,813	7,430
固定負債合計	267,529	245,285
負債合計	890,203	721,179
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,879	605,007
資本剰余金	603,885	605,012
利益剰余金	△1,190,195	△1,248,422
自己株式	△34	△34
株主資本合計	17,534	△38,436
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	298	△323
その他の包括利益累計額合計	298	△323
新株予約権	5,130	5,291
純資産合計	22,963	△33,468
負債純資産合計	913,166	687,710

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	787,670	620,376
売上原価	567,161	320,959
売上総利益	220,509	299,416
販売費及び一般管理費	436,882	297,513
営業利益又は営業損失(△)	△216,372	1,902
営業外収益		
受取利息	1,154	31
受取配当金	1,991	2,270
違約金収入	2,508	—
貸倒引当金戻入額	—	3,872
その他	2,742	1,394
営業外収益合計	8,397	7,568
営業外費用		
支払利息	2,880	2,360
社債発行費償却	971	971
為替差損	1,351	—
新株予約権発行費	—	2,000
その他	12	1,184
営業外費用合計	5,216	6,515
経常利益又は経常損失(△)	△213,192	2,955
特別損失		
投資有価証券売却損	6,092	—
関係会社整理損失引当金繰入額	78,422	—
過年度決算訂正関連費用	79,044	—
貸倒引当金繰入額	—	59,484
その他	1,007	—
特別損失合計	164,567	59,484
税金等調整前四半期純損失(△)	△377,759	△56,528
法人税等	28,191	1,697
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△405,950	△58,226
四半期純損失(△)	△405,950	△58,226

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△405,950	△58,226
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12	△621
為替換算調整勘定	△1,322	—
その他の包括利益合計	△1,309	△621
四半期包括利益	△407,260	△58,847
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△407,260	△58,847

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△377,759	△56,528
減価償却費	43,314	26,131
貸倒引当金の増減額(△は減少)	24,186	55,222
関係会社整理損失引当金の増減額(△は減少)	78,422	-
社債発行費償却	971	971
新株予約権発行費	-	2,000
投資有価証券売却損益(△は益)	6,092	-
過年度決算訂正関連費用	79,044	-
売上債権の増減額(△は増加)	△14,828	30,932
たな卸資産の増減額(△は増加)	16,671	2,942
前渡金の増減額(△は増加)	△46,305	25,544
仕入債務の増減額(△は減少)	△12,348	△12,669
未払金の増減額(△は減少)	129,792	△36,237
その他	△79,830	4,103
小計	△152,576	42,412
過年度決算訂正関連費用の支払額	△48,129	-
法人税等の支払額	△1,734	△38,137
法人税等の還付額	1,293	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	△201,147	4,274
投資活動によるキャッシュ・フロー		
無形固定資産の取得による支出	△22,677	△34,426
投資有価証券の取得による支出	△9,649	-
投資有価証券の売却による収入	13,571	-
その他	2,582	13,654
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,172	△20,771
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	△44,000
長期借入金の返済による支出	△63,707	△43,206
リース債務の返済による支出	-	△1,941
新株予約権の発行による収入	-	322
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	94
配当金の支払額	△63	△14
その他	△2,954	△2,139
財務活動によるキャッシュ・フロー	△66,724	△90,885
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,524	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△282,520	△107,382
現金及び現金同等物の期首残高	727,182	435,288
現金及び現金同等物の四半期末残高	444,661	327,906

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	モバイルコン テンツ事業	Eコマース 事業	決済サービス 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	449,376	323,742	14,550	787,670	—	787,670
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	449,376	323,742	14,550	787,670	—	787,670
セグメント利益又は 損失(△)	40,689	△50,025	△46,640	△55,976	△160,396	△216,372

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	モバイルコン テンツ事業	Eコマース 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	460,192	160,183	620,376	—	620,376
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	460,192	160,183	620,376	—	620,376
セグメント利益又は 損失(△)	115,315	△2,952	112,363	△110,460	1,902

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、前連結会計年度において、決済サービス事業からの撤退を行ったことにより、当第1四半期連結会計期間から報告セグメントの「決済サービス事業」を廃止しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

当社は、平成26年10月15日開催の取締役会において、株式会社アイフリーク モバイル（当社の連結子会社）の「なりきり!!ごっこランド」を中心とする知育アプリ部門を、クックパッド株式会社の子会社へ譲渡することを決議し同日付で譲渡契約を締結いたしました。この契約に基づき、平成26年11月4日付で株式会社アイフリークモバイルは知育アプリ部門を譲渡いたしました。

1. 事業譲渡の理由

株式会社アイフリーク モバイルは、当社グループの事業の中核を担うモバイルコンテンツ事業である『デココレ』『スグデコ!』『photodeco+』『カロリナ』等のコミュニケーションコンテンツの開発・運営及び『森のえほん館』（電子えほん部門）、『なりきり!!ごっこランド』（知育アプリ部門）を展開するファミリーコンテンツサービスの開発・運営を行っております。

ファミリーコンテンツサービスについては、限られた経営資源の中で更なる成長・安定化に向け、追加投資を含めた各種取組みの検討が必要な状況となりました。

このような状況下におきまして、可及的速やかに財務基盤の増強を図るとともに、グループ全体の持続的な成長を達成していくためには、今後も黒字化まである程度の期間と追加投資が必要と見込まれる知育アプリ部門を譲渡し、当社グループの各事業部門の選択と集中をより強く推進して経営資源を集約することが、当社グループの企業価値の最大化につながると判断し、事業譲渡を決定いたしました。

2. 事業譲渡の内容

当社グループのモバイルコンテンツ事業のうち、知育アプリ部門

3. 譲渡先

株式会社キッズスター（クックパッド株式会社の子会社）

4. 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする譲渡

5. 譲渡する資産の項目（平成26年8月31日現在）

資産	
項目	帳簿価格
仕掛品	2,941千円
ソフトウェア	8,105千円
ソフトウェア仮勘定	3,468千円
合計	14,514千円

(注) 上記金額は、事業譲渡日における譲渡部門の平成26年8月31日現在の金額を表示しており、当該事業譲渡の対象となる譲渡資産の内容は、譲渡日前日の内訳によって確定されます。

6. 譲渡価額

80,000千円（消費税を含まず）

なお、譲渡損益につきましては、譲渡資産の帳簿価額と譲渡価額との差額を事業譲渡益として計上する予定です。

7. 譲渡した事業が含まれていたセグメント区分の名称

モバイルコンテンツ事業

8. 事業譲渡の日程

- | | |
|---------------|-------------|
| (1) 取締役会決議 | 平成26年10月15日 |
| (2) 事業譲渡契約締結日 | 平成26年10月15日 |
| (3) 事業譲渡日 | 平成26年11月4日 |

9. 当第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に計上されている譲渡した事業（知育アプリ部門）に係る損益の概算額

売上高	21,347千円
営業損失	39,686千円